

2016年5月2日

**プジョー 208 R2、全日本ラリー選手権第2戦で勝利目前にリタイア
～ 208 GTi は健闘、クラス2位表彰台を獲得 ～**

プジョー 208 をベースとしたラリー専用車「208 R2」が、2016年全日本ラリー選手権第2戦「久万高原ラリー-supported by Sammy」に参戦いたしました。「208 R2」は一時クラス首位を走行したものの、リタイアを喫しています。また、208 GTi はクラス2位表彰台を獲得しました。

ラリーは愛媛県上浮穴郡久万高原町を起点に、4月30日(土)、5月1日(日)に開催されました。FIA R2規定の「208 R2」で JN5 クラスに参戦する「ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム」の柳澤宏至選手は、初日からトップ争いを展開し、JN5クラスの2番手につけます。2日目に入ると、SS9でトップの選手がリタイアしたためにクラス首位に浮上。その後も順調にトップを快走していましたが、最終ステージとなるSS13のスタートから4km地点でマシントラブルが発生してしまい、残念ながらその時点でラリー続行を断念しました。一方、208 GTi をドライブした牟田周平選手は安定したペースで最後まで走り切り、JN5クラスの2位表彰台を獲得しています。

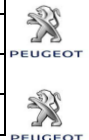
プジョー 208 R2 ドライバーのコメント:

柳澤宏至選手(ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム) JN5 クラス リタイア

「デビュー戦の唐津をふまえて、今回はプジョー 208 R2 への手応えをしっかりと感じながら走ることができました。中盤以降は気持ち良くステージを走行し、ラリーをリードすることもできましたが、気温も高く、非常に厳しいコンディションとなったことで、マシンにはかなりの負担があったようです。最終ステージでマシントラブルが発生し、ラリー続行を断念しました。とても残念な結果になりましたが、今回は今シーズン初めて首位を走ることができましたし、ターマックスステージで 208 R2 の高いポテンシャルを見せることができたと思っています」

全日本ラリー選手権第2戦「久万高原ラリー-supported by Sammy」 リザルト

クラス/クラス順位	ドライバー/コ・ドライバー	車両	合計タイム
JN5/1 位	大倉聡/豊田耕司	トヨタ・ヴィッツ GRMN ターボ	2:20:40.2
JN5/2 位	牟田周平/加勢直毅	プジョー 208 GTi	2:22:24.3
JN5/3 位	大橋逸夫/藤上亘	MINI ジョン・クーパー・ワークス	2:24:31.1
JN5/リタイア	柳澤宏至/中原祥雅	プジョー 208 R2	—



ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム: 柳澤宏至選手(右) / 中原祥雅選手(左)

MOTION & EMOTION

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室
PEUGEOT CITROËN JAPON CO., LTD.

プジョー・シトロエン・ジャポンでは、2016 年全日本ラリー選手権参戦を通してプジョーのモータースポーツ活動を盛り上げるとともに、プジョー車全体のさらなる拡販を目指してまいります。

Press contacts

<http://www.peugeot.co.jp>

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室 英(はなぶさ) TEL:03-5468-1311 shinji.hanabusa@mpsa.com

一般からのお問い合わせ先 : プジョーコール TEL:0120-840-240

リリースダウンロード: <http://press.peugeot.co.jp>

資料・画像ダウンロード: <http://press.peugeot.co.jp/permitted/document/>

PEUGEOT

顧客へのブランドのコミットメントは、爽快で情熱に満ちたドライビング、個性的なデザイン、そして妥協のない品質を示しています。これらのDNAは、プジョーの全てのモデルに注がれています。世界160カ国で1万を超える拠点を展開するプジョーは、2015年世界販売において4.6%アップの171万台に達しました。プジョーは世界へ向けて多彩な商品をもつ確固たるトップブランドを目指し、緻密なデザイン、スピード、そしてエキサイティングなフィーリングを融合しています。1889年に始まったブランドに息づく自動車の歴史は、本年ダカールラリーにおける2008DKRの勝利によって新たな栄誉を獲得いたしました。

MOTION & EMOTION

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室
PEUGEOT CITROËN JAPON CO., LTD.